



まなざし



11月号

全国学力・学習状況調査の結果より

教務主任 中根 恵子

令和4年度の全国学力・学習状況調査の結果より分析が終了しましたのでお知らせいたします。本調査は3年生の生徒を対象に、国語、数学、理科の学力調査、質問紙による学習状況調査が行われました。調査によって明らかになった課題について、学校全体で共有し学力向上につなげる具体的な指導法の工夫改善に取り組んでいきます。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として参考にしていただきますようお願いいたします。



学力調査【国語】

○ウェブページの文から、引用して書き加える問題（正答率全国比+5.1ポイント）

△表現技法の名称、同じ表現技法を使用している文章を選ぶ問題（正答率 35.5%）

【まとめ】情報を読み取り必要な文を抜き出して書く能力は身に付いている。一方、的確な表現技法を用いたり、自ら文章を組み立てたりする力に弱さがある。

【今後】表現技法にとどまらず、語彙を増やして表現力が伸びるように、2分前学習、授業導入時に言葉の意味や、文法面の問題を継続的に取り組んで力を付けていきます。

学力調査【数学】

○連立一次方程式を解く問題（正答率 85.5%）

△図形の性質をもとに、角が 60° になることに関わった説明を完成させる問題（51.6%無回答）

【まとめ】連立一次方程式など基礎が身に付いている。一方、自分の考えを表現する事に弱さがある。

【今後】演習など粘り強く行うことを今後も継続していきます。また答えに至るまでの考えをノートに明記する、説明し合う場を位置づけ、自分の考えを論理的に相手に伝える力を伸ばしていきます。

学力調査【理科】

○分子のモデルで表した図を基に、水素の燃焼を化学反応式で表す問題（正答率 90.3%）

△観測データを用いた仲間の考えに対し、どう判断することが適切か選ぶ問題（正答率 17.7%）

【まとめ】原子や分子の世界を正しく理解し、化学反応式などに応用することができている。一方、他人の考えについて吟味したり、正しい判断をしたりすることに弱さがある。

【今後】自然現象を考察で深めることを大切に、単に覚える理科ではなく、思考力を鍛えていく事を継続していきます。また、仲間の意見に対しての※批判的思考を養うために、授業で仲間の意見を自分の考えと比較したり、相違点を見つけたりしながら聞くことを指導していきます。

※批判的思考：決してネガティブな考え方を指すわけではなく、物事に対して検討を重ねて判断することを意味します。

つまり、意見を鵜呑みにせず適切に疑い検証しながら正しい結論につなげていく考え方です。

以上、学力調査の結果分析から、学校では特に語彙力・表現力・批判的思考力を伸ばしていきます。ご家庭ではニュースや新聞に触れる機会を増やし、それらを話題にした会話の中で、家族の考え方に触れさせ、どう思うのか問いかけたり、短答の時には「それはどういうこと？」と聞き返したりしていただくとよいと思います。

学習状況調査【質問紙】

学校や家庭での学習状況に関する69の質問のうち58個、実に84%の回答が全国、県の平均を上回っています。非認知能力の高さについては、学校便り2学期始業式号で校長が述べた通りであり、生徒は仲間と共に意欲的に学習に向かうことができます。数少ない平均以下の項目は、計画を立てて自ら学習に向かう・2時間以上の家庭学習時間・読書習慣に関してでした。学校でも引き続き指導していきます。ご家庭でも声かけの継続や見届けをよろしくお願いいたします。